



日本地雷処理を支援する会(ジェームス)

# JMAS活動報告

2013年7月号

## 折木新会長、荒川新理事長就任 JMAS新体制で新たな一歩へ

JMASは6月12日にホテルグランドヒル市ヶ谷(東京都新宿区市谷本村町)で第11回通常総会を開きました。総会では「2012年度の事業報告と決算」、「2013年度の事業計画と予算」が報告・審議されました。総会終了後、懇親会も開かれました。(2ページに関連記事) JMASは折木良一新会長と荒川龍一郎新理事長という願ふれで新たな1歩をスタートしました。



この度、先崎会長の後任として、6月12日に会長に就任させて頂きました。歴代の会長、理事長をはじめ本部、現地スタッフの方々がこれまで築きあげてこられた輝かしい実績を持つJMASの会長として務めさせて頂くことを大変光栄に思っております。JMASの活動は、カンボジアなどの従来の事業に加え、昨年末バオオでの海自OBが参加した事業もスタートし、またカンボジアでは現職自衛官と共に能力構築支援事業が始まっています。まさにJMASの転換期ですが、変わらざるべからぬのは

現地事業所の献身的な活動と安全な業務遂行です。そしてその活動は外資者をはじめ法人・個人会員等多くの皆様のご理解に支えられております。現地の皆さんの安全と活躍を祈念し、また、引き続き関係者の方々のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



6月12日に開催されましたJMAS総会後の臨時理事会において理事長に選出された荒川です。私は昨年7月に自筆辞を退任しましたが、現職間JMASとの関わりは創設期の数年間個人会員だったことくらいで、現在の発展したJMASの諸活動については全くの白紙の状態です。現在のJMASは発展したなりに色々な課題も抱えていると思います。しかしながら私は創設の指針である「王道を進む」ことをモットーに「活動の4原則」を守り、諸先輩が築きあげてきた成果をしっかり引き継いで行く所存です。皆様のご指導、ご鞭撻そしてJMASに対する変わらぬご支援ご協力をお願いしご挨拶とさせて頂きます。

### 会長 折木 良一

### 理事長 荒川 龍一郎

## カンボジア「SVC5周年」記念式典開催

「安全な村づくりプロジェクト(SVC)」はコマツの支援を得てスタートし今年で満5周年を迎えました。6月3日の5周年記念式典は、野路國夫コマツ会長を迎えてバタンバン州ラタナックモンドル部スレアタナウト小学校で、約1,500人が参列して盛大に開催されました。式典は部長の歓迎挨拶にはじまり参列者各位、ブラ・チャン・バタンバン州知事(サルケン副首相代理)のスピーチがありました。その後、野路会長、野中JMAS理事長、谷川現地代表に対してカンボジアに尽くした外国人に与えられる最高の勲章が授与。また今回は異例な事ですが、JMASカンボジアスタッフの5人に対し、その功労を称えて勲章が授与されました。式典の最後には、この5年間につくられた小学校3校による学校対抗の運動会が行われ、児童らは綱引き(写真)、リレーなどの種目で競い合い楽しい時間を過ごしました。



認定NPO法人 日本地雷処理を支援する会  
会長 折木 良一 理事長 荒川 龍一郎

世界中の紛争跡地には今なお膨大な数の地雷・不発弾が残されたままであり、人々が厳しい環境の中で生活しています。JMASは、専門技術を持つ自衛官OBが中核となって2002年設立し、世界各地で地雷・不発弾処理プロジェクトを行い、安全な環境を造っています。

## 第11回通常総会で議案審議、将来体制を説明

6月12日午後4時からホテルグランドヒル市ヶ谷において、82名の会員のご出席を頂き第11回通常総会が開催されましたので、その結果をご報告いたします。

野中理事長を議長に選出し、総会開催に必要な定数を満たしていることが報告された後、第1号議案(24年度事業報告・決算)、第2号議案(25年度事業計画・予算)、第3号議案(定款一部変更)、第4号議案(役員選任)について説明及び審議が行われ、第1、第2及び第4号議案については、原案のとおり承認されました。第3号議案(定款一部変更)については、出席者から「監事の選任を総会から理事会に変更することについて異議あり」との意見がありました。これを受けて出席者から「第3号議案を修正し理事の選任と監事の選任に分けて採決してはどうか」との提案があり、議長がこれを踏ったところ承認が得られたため、理事の選任を理事会で行うことについて採決が行われ、承認されました。次いで議長から、「監事の選任については理事会で再度検討し改めて総会で報告したい」との提案がなされ、了承されました。

議事終了後、野中理事長からJMAS将来体制について、新たに「将来事業部門(総合研究部、地雷不発弾部、復興支援部)」を新設し、JMASを取り巻く状況の変化に対応していきたいとの説明が行われ、最後に先崎会長の挨拶をもって第11回総会を終了いたしました。



## 通常総会後の懇親会で活発な意見交換



JMASの通常総会に引き続き行われた懇親会には約90人が出席、会員相互に歓談したり、活発に意見交換するなど和やかな雰囲気となりました。多忙の中自民党から元防衛相で党広報本部長の小池百合子衆議院議員(写真左)と党国防部会副会長の宇都隆史参議院議員(同右)、現役自衛官として陸上幕僚副長の番匠幸一郎陸将(同左下)も出席してくれました。



小池議員からは「日本は点でやる事は上手く、現場力はあるが、面となった時の戦略性をもっと考えないといけない。JMASの活動をさらに広げられるストーリー展開を考え、さらに世界で花開くように力を合わせたい」とJMASへの熱いメッセージを頂きました。宇都議員は「先輩たちが前線に戦った後も活躍をしておられることに敬意を表します」との激励に続き、番匠陸将からは「世界から褒められているのが自衛隊とJMASの関係。防衛省とJMASの能力構築支援事業は世界のモデルとのほめ言葉は先輩たちの功績です。現職としてやるべきことをやらせてもらいたい」と力強い言葉がありました。



会場のあちこちで数談の輪が

現地代表、さらに個人会員、寄付者、そして法人会員の小松製作所、ダイキン工業、中国化薬東京支店、日本工機、大阪サニタリー金属工業協同組合、大和探査技術、武蔵富装、創志企画、藤倉航装などから多数のご参加を賜りました。みなさまの熱気と活力が会場内に満ち溢れ、盛会のうちに無事懇親会を終えることができました。



昔話とJMASの今後に話が弾んだ会場

## カンボジア

カンボジアにおける地雷処理促進事業・不発弾処理促進事業は、昨年から引き続き活動継続中です。それぞれの事業では、現場での直接指導だけでなくトレーニングセンターにて統合集合訓練を実施し、屋内での講義や屋外で探査の実地訓練を行いました。地雷処理においてはマネージメントを中心に、不発弾処理においては安全管理を中心に指導し、隊員が自らの技術や知識を向上させ、より安全に作業できるよう努めました。

また、現場にはたくさんの見学者が訪れ、JMASの活動について理解して頂くことができました。



地雷除去機



火薬の焼却処分



見学者へ説明



探査の実地訓練



毎月の主任者会議では真剣な議論を

現場近くの子供に対する危険回避教育

## アッパー果不発弾処理事業

中継専門家は、ワオス不発弾処理機関(UXO Lao)と連携して不発弾処理を行なうとともに隊員に対して学科とOTにより処理技術の移達を行なっています。5月に実施した爆弾のごりカット法試験をワオス不発弾処理統制機構(NRA)のアーク・比官が視察しました。



爆弾のごりカットを視察するNRA比官(左)

## ラオス



## チャンバサック県不発弾処理事業

昨年7月から始まった第2期事業は終盤を迎え、西城専門家は不発弾処理会社(CI)が担い手となる樹木伐採・掘削作業の監督業務を実施中です。雨季を迎え、道路状態の悪化や作業の中断などがありますが、安全管理に留意しながら累積残存予定地200haの安全化作業を進めています。



大型爆弾の安全化を終えた中継専門家(後列左)

作業現場で調整中の西城専門家(右)



安全化作業を終了した地域

## アンゴラ

昨年引き続き「ベンゴ州の市街地2,000戸建設計画」に基づき州政府から要請を受けた住宅1,000戸用地(約40ha)の地雷処理を行っており、処理事業は概ね順調に進行しています。

また、地域復興支援にあたっては、道路整備、給水、清掃活動、農業心育成並びに青少年育成等の支援事業も拡充を図るべく引き続き実施中です。なお、除去地には、住宅、給水施設及び総合体育館が建設中で、未着工は農耕地として活用が図られており、中には炭焼きを始める者も現れています。



凹凸の多い地区除去中のナジラウ



5万人用給水施設を建設中



住宅建設業者のさつまも焼



処理地域拡張に伴う道路造成



JMAS地雷博物館で新入生に危険回避教育



花植栽により農業心を育成

## パラオ

2012年12月、外務省無償資金協力贈与契約を締結し、パラオ共和国において、JMAS初となる海中に残るERW(爆発性戦争残存物)処理事業を開始しました。パラオは第2次世界大戦の激戦地であり、戦時中発射・投下された砲弾は取り残されたままであり、産業開発や観光開発の妨げになっています。

第1期事業では、コロール州パラオ港外にある沈船(通称:ヘルメットレック)に残存する爆雷を処理します。海中調査の結果、爆雷160個程度確認できました。また、爆雷の亀裂からはピクリン酸(爆薬の1種)も漏洩しており、海中汚染が懸念されます。海域の安全化のためにも早期の処理が必要です。パラオ大統領を初め政府機関担当者等へ調査結果及び爆雷処理要領を報告・説明し、処理作業許可が一日でも早く下りよう調整をしています。なお、ピクリン酸が漏洩している爆雷の処理は、通常のダイビングスーツではなく、汚染水域用潜水器を使用します。水中での作業は潜水時間が限られているため、時間上の勝負となります。



契約締結



処理作業に使用する汚染水域用潜水器



パラオ大統領(中央)への報告



沈船の概要



海中調査



海外のスタッフを紹介します



**パラオERW(爆発性戦争残存物) 処理専門家**  
**嶋田 政治(しまだ まさはる)63歳**

**プロフィール** 熊本県出身  
 1970年海上自衛隊入隊、第1術科学校、沖縄基地隊  
 第13航空隊、第1海軍航空隊、第1航空隊、第1航空隊  
 隊副隊長を経て、沖縄基地隊水中処分隊長を最後に  
 2011年定年退官

JMAS初の不発弾等水中処分の専門家として赴任した2012年12月10日、夜のパラオ国際空港に降り立ちました。その瞬間、39年前自衛官として、祖国復帰直後の沖縄返還空港に降り立った時のことを思い出し、古びた建物、吹きさらす風物等どこか共通する雰囲気を感じました。

先の大戦で「敵の暴風」が吹き荒れた20年後の沖縄から私の不発弾処理人生が始まりました。赴任した沖縄では、地元の方々の話から沖縄戦、不発弾の話、戦中・戦後の話、南洋群島の話等豊富な体験談を聞き、若かった私にはすべてが貴重な体験でした。

その際、良く話題に上ったパラオに今回赴任した不思議な縁を感じています。コロール州政府から依頼調査がやっと許可され、2月5日から持ちこたえた水中調査を開始しました。コロール湾の水深は、真夏の沖縄と同じ28度、潮には快適な水温です。ダイビングで人気の国を体験しました。旧日本海軍軍用貨物船(船名不詳、通称ヘルメットク)は沈没後、船倉内に積たれた爆発物の上に乗ったと思われる地層物が6年と10月目の長さで物語っています。調査の結果、目視で確認できる爆発物は160発程度で、爆発の亀裂からは有害なダイオキシン(爆薬の1種)が検出されています。現在潜水禁止海域に指定されていますので、ダイバーが安心して潜水できる環境整備に、自衛隊で培った不発弾処理技術を役立てられることは嬉しい限りです。今は、パラオ政府から爆雷等処理作業許可が下りるのを心待ちにしています。



**カンボジア IMC地雷処理専門家**  
**高木 茂(たかぎ しげる) 58歳**

**プロフィール** 愛知県名古屋出身  
 1976年海上自衛隊入隊、主に北海道に駐屯する  
 施設科部隊に勤務し、2009年定年退官

2010年3月 当時、2年目を迎えたJMAS SVCの土木・地雷処理専門家としてバタンバンに赴任しました。初めて、現場に到着した日に、対人地雷が多数発見され、CMACの地雷処理小隊長の後を恐る恐る付いて確認に行ったことを、今も鮮明に覚えています。過去、自衛隊に勤務して、施設科隊員として国産の地雷は何度も扱い、実爆弾は何回も体験していましたが、異国の地で、見たことない対人地雷が大木の根元に埋設されているのを、この目で確認し、今更ながら、地雷の恐ろしさと致傷性を再認識しました。その後、我々が地雷処理している現場の近くを、半を引いた少年が歩いて、地雷原の草を口に食べさせる姿を見て、カンボジアでの地雷は生活に密着している、地雷による事故が絶えない理由がわかりました。1年間の月を費やし、一度日本に戻りましたが、昨年6月、JMAS理事から要請があり、8月にIMC地雷処理専門家として、再びバタンバンの地を踏むことができました。現在は、献身的かつ積極的なカンボジアスタッフに囲まれ、毎日楽しく生活しています。IMC 2Pは、今年度、250haの地雷原を処理することを自任に現在、実施中であり、9月からは、2013年度として、2年目を迎え、益々充実し、約300haの地雷原を処理する予定です。安全・確実かつ多くの地雷原を処理することをコンセプトにして、カンボジアから努めて早く、全ての地雷がなくなることを目標に、今後とも、頑張っていく所存です。我々、JMASカンボジアを今後とも宜しくお願いします。



チャリティー・ノルディック・ウォーキングに参加

ノルディック・ウォーキングクラブ関東が主催する地雷処理チャリティイベントが6月2日に開催されました。今年で3回目となるこのイベントでは、収益金をJMASにご寄付下さっています。皆さまからのご支援に心からお礼申し上げます。



豊田通商からのご寄付

JMASはアンゴラにおける官民連携事業におきまして、豊田通商から車庫など(リヤカー、積束手機等含む)の大きなご支援を頂いておりますが、5月9日、トヨタアンゴラの山下社長代理から最終3両目の新車の贈呈を頂きました。



退任あいさつ



高いNPO法として、益々充実発展して行くことを願っています。ありがとうございます。

第2代 JMAS 会長 先崎 一

この度の平成25年度JMAS総会時をもって、JMAS会長を退任することになりました。約5年半にわたり、志を共有する仲間皆様と共に御付き合いさせて頂いたこと、大変お世話になり、心から感謝申し上げます。

新体制の下、JMASが引き続き多くの方々を支えられ、信頼されるより質の高いNPO法として、益々充実発展して行くことを願っています。ありがとうございます。

第2代 JMAS 理事長 野中 光男



約6年間、北海道から九州に至るまで多くの所で皆様とJMASについて語り合うことができました。総会後の岸上でJMASの将来構想について簡単に説明させていただきましたが、これまでの感謝を維持しつつ新時代への発展を期待し、新しい人材を獲得し、日本のNGOにおける「JMASイニシアチブ」なるものを創っていくために新しい組織をJMASに編成しました。期待していただきたいと思います。ありがとうございます。



これからもスタッフ一同力を合わせて頑張っております。JMASは皆様からのご支援に支えられています。今後ともよろしく御願い申し上げます。

お疲れさまでした



【役員】  
 正会長 大屋 隆夫さん  
 副会長 久井 洋さん  
 理事 海沢 さん  
 理事 橋本 さん  
 理事 新井 智恵さん  
 【退任】  
 元副会長 3:31 橋本 隆夫  
 元理事 3:31 久井 洋  
 元理事 3:31 美沢 貴  
 元理事 6:30 大屋 隆夫  
 元理事 6:30 新井 智恵

認定特定非営利活動法人 日本地雷処理支援会 (国政庁登録認定 課法11-43号)  
 JMAS事務所 平162-0845 東京都新宿区市谷本村町1-18  
 エムズビル5階  
 TEL: 03-5228-7820  
 FAX: 03-5228-7821  
 E-mail: jmas\_hq@jmas-npo.jp  
 URL: http://www.jmas-npo.jp  
 Facebook: https://www.facebook.com/jmasnpo

【ご入会・ご寄附のご案内】  
 正会員 (個人) 年会費1万円(法人) 年会費6万円  
 賛助会員 1千円以上 寄附 制限はございません  
 <郵便振込> 00170-11-13769  
 <口座名> 特定非営利活動法人日本地雷処理支援会  
 【JMASへのご寄附は寄附金控除の対象となります】  
 書き損じハガキを送ってください!